Ⅱ　アンケート調査（石川県）

Ⅱ－１．高等学校へのアンケート調査

石川県教育委員会の協力のもと、県内全高等学校 61 校に対し、発達障害生徒の高大連携のニーズと進学に関するアンケート調査を実施した（有効回答数：44/61）。

本アンケートは高等学校の発達障害支援全般における実態把握が主たる目的ではなく、高等学校における発達障害傾向を有する生徒の進学に焦点を当て、そこで直面している問題をもとに高大連携のニーズを探ることを主たる目的している。

Ⅱ－２．アンケート結果

有効回答数（44/61）※2009年4月　石川県教育委員会より配布
※アンケート用紙は資料として掲載

１．貴校における大学・短大進学を志望する生徒の割合はどの程度ですか？

①8割以上　（12）
②半数以上　（6）
③半数未満　（21）
④ほとんど無し　（4）
計：43　　無回答：1

２．進学を志望する生徒の中に、発達障害の傾向による困難さ（学習、自己決定、対人関係など）を持っていると感じられる生徒はどの程度いますか？

①かなりいる（10名以上）　(2)
②少しはいる（5名程度）　(11)
③ほとんどいない　(23)
④把握していない　(5)
計：41　　無回答：3

※各自由記述欄より

- 入学時、中学校からの申し送りでアスペルガーではないかという（診断が出ているわけではなく、巡回の専門員からいわれた）情報を受け、現在気をつけてみていかなければならないと感じ始めたところです。
- １名把握している。アスペルガー障害、音のみの伝達は伝わりにくく時間の捉え方も独特である。

・　こだわりが強い。場の空気が読めない。
・　友人関係、コミュニケーション能力の不足
・　人間関係、コミュニケーション能力の不足
・　孤立している（数名）長欠が続いている（2名）
・　他人と正常な関係を持つのが難しい
・　返事がなかなか戻ってこない。しかし高学力である。
・　対人関係、コミュニケーションの困難さ
・　自分中心の行動が目立つ
・　周囲の空気が読めない
・　見通しを持った行動ができない
・　１人（ADHD）
・　集中力がない
・　注意力不足、落ち着かない等
・　授業に集中できない（いつも伏せている）、連絡事項が徹底しない（「忘れた」という）、友人ができない（周りとのコミュニケーションがとれない）
・　昨年度１名（LD傾向あり、発達障害支援センターへも行った）卒業後、就職先をセンターの支援を受け考えて決めていく。コミュニケーション能力（うまく発言できない）
・　黒板を写すのがかなり遅い。
・　１名そうではないかと思われる生徒がいるが何とか学校生活を送っている。保護者は認めたがらない。性格ととらえている。

３．上記の困難さを持っていると感じられた生徒に対して何らかの配慮・支援をしていますか？

①配慮している　　(17)

②特にしていない　　(7)

計：24　　無回答：20

※①を選んだ方はどのような配慮をしているかお選びください。（複数回答可）

１）心理的サポート　　(9)
２）環境的サポート　　(7)
３）学習面のサポート　　(7)
４）進路指導上のサポート　(4)
５）その他　　(2)

※各自由記述欄より

１）心理的サポート
・　良いところを見つけて褒める
・　うまくいった時に褒めるなど。

・　本人にわかりやすいようなコミュニケーションの取り方
・　コミュニケーションスキルの育成、相談室に毎日顔を見せる。
・　中学校からの引き継ぎで人間関係等に配慮している
・　人間関係づくり
・　保護者、本人と面談を続けている。
・　カウンセリング
・　本人が興奮した時に待機できる場所
・　クールダウンする間できるだけ（焦っているときは）追い討ちをかけずに待つ。
・　パニックを起こしそうになったときの具体例を指示している。
・　（泣いて）うまくできないとき・・その時行き詰まってしまったことを聞き、察し、個別で対応し、できるように支援する。

２）環境的サポート

・　クラスのメンバーを考えている。
・　クラス編集時に配慮した（少しでも話せる友人と同じクラスに）授業での声かけ（寝ないように）、連絡事項を個別に伝える。
・　よく理解している生徒が声をかけ、手助けをしてくれる（クラス）。クラブでもその子自身が自信を持って取組めるように、部員も理解し関わっていた。
・　本人を受け入れるようなクラスづくり
・　校内全体での支援体制をとり、クラス替え時などにも配慮している。
・　校内小委員会で対応し特別支援委員会でさらに審議する。
・　相談室、保健室をクールダウンの場として本人、保護者に提示。

３）学習面のサポート

・　板書の時間をゆっくりとる、こまめに指示を出すなど
・　板書を写すための時間を多めにとる。
・　指示するとき、個別にゆっくり順を追って説明などするようにしている。あるいは紙に書いてあげるなどの配慮
・　提出物を出す習慣をつけて、出したら評価する。
・　本人にできる範囲での課題の指示、評価を校内で連携して実施している
・　入学したところなので、まだ評価等々の対応は十分ではない。
・　出来ない様子が見られたら個別で対応

４）進路指導上のサポート

・　専門員を派遣していただき進学などのアドバイスをしてもらいました。
・　発達障害支援センターと保護者と連携。学校での様子（よい所、その子の力など）を伝える。
・　保護者との連携は密であるが今年度3年生であり今後の重要課題である
・　卒業後を見据えて具体的な内容を協議している。

５）その他

・　学校で何かあったときはこまめに保護者に連絡する。
・　特に大きな問題は今のところないので学校全体で見守っている。

４．進学を志望する発達障害傾向のある生徒にこれから必要だと思う配慮・支援はどのようなことですか？（複数回答可）

１）心理的サポート　　(10)

２）環境的サポート　　（7）

３）学習面のサポート　(7)

４）進路指導上のサポート　(9)

５）その他　(0)

※その他、及び１～３の具体例

１）心理的サポート

- やはり良い面を引き出して評価してあげ気持のよい状況をつくってやる。
- 自己肯定感の回復
- 不安を取り除く。集団（社会）の中で生きてゆける力をつける。
- 本人の不安感を理解、やわらげる環境づくり
- 環境に早く慣れるためにどうすればいいか。
- 環境が変わることの心の準備
- 定期的に面談を行う
- 心のケア、信頼関係づくり
- 焦らず自分のペースで勉強するよう指導する

２）環境的サポート

- クラスの中での人間関係づくり
- クラス内に相手を思いやる雰囲気を作る
- 周りとのコミュニケーションが取れないことに対する支援（卒業後が心配）
- 声かけ
- 突然の時間割変更や教室変更をしない
- 進学に向けての校内支援体制の強化
- より具体的に個別学習や質問をする場、時の提供

３）学習面のサポート

- 宿題、課題等を確認する
- プリント等は教科担任から直接渡す。
- ノートをきちんととるため、板書するのが遅い。
- 本人が苦手で理解できない分野があるのならそこをどのようにクリアーするのか個別の指導をする。
- 個々の授業担当者による本人の状況に応じたサポート
- 個々に合った対応が必要であると思われる。（例）文字でしか理解できない生徒、図式しないと理解できない生徒など）
- 個別指導

４）進路指導上のサポート

- 受験の手続き等の確認（本人、保護者）を密にする。

・　願書の書き方について、細かく指導するための時間をとる。
・　受験に際してどんな配慮を専門学校がしてくれるか情報収集し保護者に知らせる。
・　大学、専門学校の情報の提示、本人保護者の理解、納得
・　卒業後の職業をも視野に入れた進路先の決定についてよく話を聞く。
・　本人に向いている進学先をアドバイスする
・　保護者との連絡を密にする。
・　周囲の理解、本人の自己認知などが必要である。
・　進学、就職する際までに身につけさせたいスキルの育成。かなり時間と手間がかかる。
・　早くから支援センターと協力しその子の持つ力を生かせる就職先を見つけられるようにする。

５）その他

・具体的な事例を知りたい

５．発達障害の傾向にある生徒の進学指導で、これまでどのような困難さを感じましたか？

※自由記述

・　本人の自立へのサポートをどのようにしていけばいいのか難しかった。
・　共通していること：友人を作ることができない。が、学習（学力的）上、もっともっと低い生徒がいっぱいいるので、それ程目立った問題はでてこない。
・　進学してもうまくいかずやめる。
・　話が通じにくい
・　進学指導は今後の課題

６．発達障害の傾向にある生徒の進学指導に関して、大学側からどのような情報があると、指導しやすいでしょうか？　（※優先順位記述式：加重平均）

表１．大学から発達障害支援についての情報提供をしてほしい内容
順位別人数表

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	回答数	合計（順位毎回答数×点数）	加重平均（合計／回答数）
点数	6点	5点	4点	3点	2点	1点			
支援体制	8	3	6	1	1	1	20	93	**4.65**
入試配慮	6	6	2	4	1	1	20	89	**4.45**
支援窓口	4	6	3	3	4	0	20	83	**4.15**
支援実績	3	6	3	5	2	1	20	80	**4.00**
入学後情報	2	2	6	2	5	2	19	64	**3.36**
ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ	0	0	1	1	3	11	16	24	**1.50**

その他（自由記述）

- 情報交換や相談しやすいこと
- 現在大学などではどの程度支援体制がなされているのか？
- 情報共有
- 本人は学校側が支援体制を組んでいることを知りません。ですから進学したあと、本人自ら[支援]窓口へ出向くことはないと思います。本人保護者に支援していることを知らせるべきかどうか・・。進学後大学に知らせるべきかどうか・・。ということが問題になってくると思います。

Ⅱ－３．考察

アンケート結果から、高校側の発達障害のある生徒への対応の意識として、以下のような傾向があることが明らかになった。

〇高校が感じ取っている発達障害傾向を有する生徒の困り感について

- 実際に中学からの申し送りでアスペルガー症候群と伝えられているケースも含め、前年度のアンケート調査同様、困り感としては自閉圏と思われるものが多く、次いで集中力の困難を主としたADHD傾向が多く、LDの特徴を困難と感じている回答は少数であった。この結果は、怠惰や学力不足と捉えられがちな、ADHDとLDに比べ、自閉圏の特徴が社会的コミュニケーションや対人関係に現れやすく違和感として教員から分かりやすいという理由もあると考えられる。

〇これまで行った配慮・支援とこれから必要と思われる配慮・支援について

- 心理、環境、学習面については既に行っていることと必要性が一致しているが、進路指導への配慮・支援は必要性が高いが実施している高校は少ないことからこれからの課題だと言える。
- また、今後必要と思われる進路指導上の配慮、支援では、情報提供の方法や手続き上の配慮の他に、保護者との連携の重要性や進路先と本人のマッチングなどを重要と考えていることが分かる。

〇進学指導上、大学から提供してほしい情報について

- 大学での支援体制の情報に対するニーズが高かったが、入試配慮の情報へのニーズも同様に高く、反して進学後の生徒の情報やオープンキャンパスに対するニーズは低かった。これは高校側が大学の受入体制をもとに、本人、保護者に情報提供を行いたいといった傾向と考えられるであろう。
- また、高校側が発達障害傾向のある生徒としてサポートしていることを、本人・保護者に伝えていない場合、大学の支援窓口情報を伝えるべきか分からないという問題は、高大連携にとって大きな課題の一つといえるだろう。